



やさしいまちは、  
みんなで作る。

# 福祉教育 リーフレット



# ともに助け合って生きる大切さを 子どもたちに伝えたい…

社会福祉協議会では、  
福祉について理解・関心を深めていただくために、  
「福祉」をテーマとした体験型学習等の福祉教育を進めています。  
「福祉」とは、私たちみんなが幸せに暮らしていくことです。  
人は一人ではなく、心のふれあい、支えあい、助け合いによって  
幸せに生活できるのだと考えています。



たとえば、社会福祉協議会では、  
このように福祉教育を進めています…

## 「目の不自由な方の生活を知ろう」

### ★目的★

目の不自由な方の生活の様子をお聞きし、生活をする上でどんな工夫をされているのか、ともに暮らすためにどんなことが自分たちにできるのかを考えます。

### ★学習の流れ★(学校内編)

1. 目の不自由な方が生活する上で、苦労している点を考えます。
2. 目の不自由な方に実際にあって、どのような生活をしているのか(一日の生活の様子や趣味、苦労していること等)をお聞きます。
3. お聞きした内容についての感想を話し合います。
4. 目の不自由な方と接するとき、自分たちができることを話し合います。

### ★体験を通した子どもたちの感想★

趣味は編み物で、今日着ているセーターも自分で編んだんだって…。  
目が見えないことはかわいそうだなと思っていたけど、私たちと同じように生活しているんだって気づきました。



## 「おとしよりになってみよう」

### ★目的★

おとしよりの疑似体験をすることで、加齢による現象を理解するとともに、接し方について考え、おとしよりを尊敬・感謝する視点を基盤とした助け合いの大切さを学びます。

### ★学習の流れ★

- 1.おとしよりの生活について（目が見えにくい、耳が聞こえにくいなど）話し合います。
- 2.高齢者疑似体験セットを着用し、街に出かけてみます。3人～4人組（高齢者役、つきそい役、メモ役）で交代しながら行きます。
- 3.疑似体験の感想や接し方の工夫について話し合います。
- 4.高齢者と接するとき、自分たちができることを考えます。

### ★体験を通した子どもたちの感想★

祖父母と住んでいたときは些細なことにイライラしているのを見て、どうしてもっと前向きに見れないのだろうと思っていたけど、体が重かったり、動かなくなってくる手足のまま活動していくのは大変だと思った。これからは、もっと力になりたいと思った。



## 「優しさ発見!ユニバーサルデザイン学習」

### ★目的★

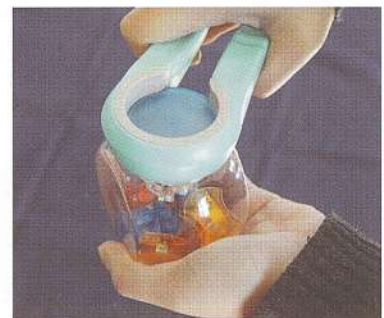
自分を含めた「すべての人に優しい」を考えるきっかけをつくります。社会に存在するバリアに気づく心を育てることで、思いやりの行動につながります。また、バリアフリー学習だけでは得られない、多様な生活者に対する特別視から抜け出すこともめざします。

### ★学習の流れ★(学校内編)

- 1.シャンプーとリンスのボトル、アルミホイルの箱などを観察し、違いを発見します。発見した違いや工夫をみんなで共有します。(アイマスクを利用しても良い)
- 2.どうして、ユニバーサルデザインの商品やまちづくりが必要なのか、話し合います。
- 3.違いや工夫があることがいろいろな人への優しさであることに気づかせ、身の回りにある優しさやバリアを探してみます。
- 4.バリアに気づくことが大切であり、ユニバーサルデザインを広めていくことが、だれにとっても住みよいまちになることを伝えます。

### ★体験を通した子どもたちの感想★

「ユニバーサルデザインの7つのきまり【①どんな人でも公平に使えること ②使う上で自由度が高いこと ③使い方が簡単で、すぐに分かること ④必要な情報がすぐに分かること ⑤うっかりミスが危険につながらないこと ⑥身体への負担(弱い力でも使えること) ⑦接近や利用するための十分な大きさと空間を確保すること】を見て、そのすべてに当てはまっていて、赤ちゃんからお年寄りなど、幅広くいろいろな人たちのことを考えて、いろいろな人にあったものを作るなんてとてもすごいと思いました。」「今日、見られなかったまちなかのユニバーサルデザインを探します。」



## 〈福祉教育に関するこんな資料やサポートを準備しています…〉



### 手引きの発行

福祉について理解・関心を深め実践していく手引きとして、学校の総合的な学習の時間や各地域で実施される研修会で活用いただける福祉ハンドブックです。小学生向け、中学生向けがあります。



### 車いす

車いすに乗り街に出てみると、街の危険な箇所や不便なところを発見することができます。車いす利用者の視点を体験し、街のバリアや介助の方法を学べます。



### ビデオ提供

福祉やボランティアに関するビデオ教材の貸出をしています。



### 研修会開催

福祉教育プログラムや実践報告等の最新の情報をお伝えするための研修会を開催しています。子どもたちの生きる力を育みたいという共通の目標をもった教育関係者、福祉関係者等が一同に集う研修会です。





## 〈さらに、さらに…社会福祉協議会では、こんな活動もしています…〉

### ★「わんぱく寺子屋」は福祉活動を体験して学ぶ地域の道場★(美祢市社協)

楽しいことが絶対条件の「わんぱく寺子屋」。「わんぱく寺子屋」と名付けられた地域の道場で、子どもたちが楽しく福祉体験学習できる機会を作ります。地域の魚釣り見守りボランティアと一緒に海釣りを楽しみながら、潮の流れや風の向きに自然を学び環境について考え、海岸清掃ボランティアにも変身します。

「福祉教育は未来への投資」。さまざまな活動に福祉教育のエッセンスを散りばめています。また、そうした活動の中で、子ども達は「だれかの役に立ちたい」という気持ちを大切に、社会の役に立てたという喜びを得られるような取り組みもします。障がいをもつ人や高齢者とのスポーツや交流を通して共に生きていくことのできる社会についても考えて学びたいと考えます。

学校での福祉体験学習の場面においても、命の大切さ、友達の大切さ、人と人が支え合うことの大切さ・素晴らしさを伝えられるように、当事者やボランティアとの関わりが深まるような、体験学習等のプログラムを提案しています。



### ★ふれあい・いきいきサロンを通じた高齢者との集い★(岩国市社協 由宇支部)

小学校での研究や福祉学習で勉強したこと(車イス・手話他)、地域の民話を基にした紙芝居や人形劇そしてリコーダーを使っての演奏や歌の合唱などを「ふれあい・いきいきサロン」で参加者の方々に発表することにより、児童と高齢者の交流を図っています。「ふれあい・いきいきサロン」とは、公民館などを会場として、地域の誰もが、楽しく、気軽に参加することができ、レクリエーションやゲーム、おしゃべりなどをする「地域の居場所」のことです。この「ふれあい・いきいきサロン」を活用することにより、高齢者と自然な形で交流することが可能で、高齢者の深い知恵や温かさ、また高齢者ならではの辛さについても直接感じ取ることができます。

社会福祉協議会では、この「ふれあい・いきいきサロン」と学校とのコーディネート及び交流に関するアドバイスをさせていただくことにより、交流が上手いくようにお手伝いさせていただいております。



## ★先生と一緒に創り上げる福祉教育協働実践★（下関市社協 菊川支所）

菊川支所では、学校の教員、福祉施設の職員、地域のボランティアアドバイザー（福祉員や民生委員等）、社協の職員が、福祉教育というテーマについて語る場を毎年持っています。その継続が、現在の学校、地域を基盤とした菊川での福祉教育実践にあると思っています。特に、学校での福祉教育では、先生方は教育の専門職として、社協は「福祉」専門職としてより良い子どもたちの学びの場となるよう協働実践ができる関係づくりに努めています。また、オープンスクール等の保護者が学校に参加する場面で福祉教育を実践させて頂くことで、社協では関わり合う機会が少ない親世代の方々と関わりがもて、子育て世代の課題やニーズを知る機会となります。

福祉教育を進めるにあたって、子ども達に「教える」ことはもちろんですが「子どもたちの育」を重んじ関わりを持ち続ける住民が増えていくことを大切だと思っています。ボランティアアドバイザーである福祉員や民生委員等地域の大人が福祉教育を通して学校現場に出かけ、子どもたちの「育」に関わる地域の応援団として一緒に福祉教育を展開していける土壌づくりを進めています。

福祉ってなに？幸せになること？幸せになるってどんなとき？人に優しくされたとき！子どもたちの気づきが促されるような関わりを持っていきたいと思っています。



## ★地域のお祭りに子どもたちの出番を…★（山口市社協 阿知須支部）

自分たちにできることを考えながら思いやりの心を育て、地域で共に生きることの大切さを学んでもらうために、学校での福祉体験学習と地域の行事等をリンクさせて展開しています。

地域のお祭（ふれあいまつり）では、中学生が事前に介助の方法について学んだ上で、地域の病院や福祉施設入所者を車いす介助しながら、一緒にお祭を楽しんでいます。他にも、自分たちにできるボランティアについて考え、バザーを企画。売上で車いすを購入し各施設等に寄付する活動に取り組んでいます。

夏休みに行っている「めだか〜の学校」（福祉体験教室）は教育委員会との共催で、手話や点字といった福祉だけでなく国際交流や環境問題についても学べる機会を作っています。それぞれの場面における講師は地域住民。子どもたちが地域住民とつながることを大切にしています。

また、教育委員会や先生たちと「福祉教育・ボランティア委員会」を設置し、「阿知須の福祉教育をどう進めるか」を話し合い、一緒に福祉教育を創り上げています。共に考える場があることで、ふれあいまつりや「めだか〜の教室」といった地域の活動も、先生方と共に取り組むことができます。



ここには、紹介しきれない程の活動が各市町で展開されています



## 社会福祉協議会の願いは…ひとつ。

社会福祉協議会では、「誰もが安心して豊かに暮らすことができるまちづくり」を目標にし、地域社会にあるさまざまな福祉問題の解決に住民の皆さんと一緒に取り組んでいます。

私たち住民は、普段の生活では社会のバリアや問題に気づきにくいものです。しかし、高齢になったとき、災害で普段の生活ができなくなったとき、一人では抱えきれない程の悩みをもったとき、普段は何気なかったことがバリアとなって、一人で生活を続けていくことが困難となります。街なかの段差やゴミ出しの分別、重たい布団を干すことも、一人で生活を続けていくときのバリアとなります。また、乳幼児を抱える親にとっては、育児への不安やストレスもバリアと捉えることができます。

社会福祉協議会の願いはひとつ。

お互いが助け合って生きることができる地域をつくることです。そして、ともに生きることの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思っています。

子どもたちのいじめや自殺は、社会福祉協議会が目標としている社会の対極にあります。みんなが幸せに生活したい。そうした社会を実現するために、自分と同じように他者を大切に思うことが大切です。自殺したいほどつらい想いになったときに、その想いに気づいてあげられる優しさが子どもたちの心のなかにあります。そんな輝く種を育てる営みに、福祉教育があると思っています。福祉をテーマとした体験学習の機会をと考えたとき、お気軽に、社会福祉協議会のとびらをたたいてください。

◆ 社会福祉法人山口県社会福祉協議会／山口県ボランティアセンター  
〒753-0072 山口県山口市大手町9-6 山口県社会福祉会館内  
TEL (083) 922-7786 FAX (083) 923-0294

◆ お近くの社会福祉協議会の連絡先:



地域の福祉、  
みんなで参加

赤い羽根  
共同募金